

「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050 京創ミーティング～」第1回会議 議事録

日 時 令和3年9月7日（火）午後3時～午後5時

場 所 京都信用金庫 QUESTION 4階 コミュニティステップス及びオンライン会議システム併用

出席者（敬称略，五十音順，*印はオンライン参加）

グループ① 一ノ瀬メイ，岩崎達也，大木和典，太田航平，津田郁太，前田展広

グループ② 一原雅子*，笹岡隆甫，寺島美羽，中嶋直己，横江一徳，吉野章

（オブザーバー：瀧上直人*，福嶋慶三*）

グループ③ 木原浩貴*，近藤令子*，鈴木靖文*，中馬一登*，中村多伽*，松本直人*

（オブザーバー：石川紘嗣*，猪田和宏*，小坂洋平*）

欠席者 野村恭彦，深尾昌峰，松添みつこ

次 第

- 1 開会
- 2 推進チーム結成
- 3 市長挨拶
- 4 推進チーム趣旨説明
- 5 チームメンバー自己紹介
- 6 意見交換（グループディスカッション）
 - (1) 2050年のライフスタイル像について
- 7 まとめ
- 8 閉会

意見交換での主なご意見

1 2050年のライフスタイル像に関するもの

○豊かさ

- ・人は足りているものではなく，ないものを求め，足りないものをモノで補っている。足るを知り心が豊かになることが地球の調和につながる。
- ・ごみになるものは売らない，ごみは買わないが当たり前になることが豊かさかもしれない。
- ・今後，少子高齢化で，4人の高齢者を1人の働き世代が支えるという世の中になる。豊かの価値観が変わらないと生きていけない。自分が社会を支えていること，社会の一部であることが豊かであると認識できることが大事。
- ・豊かさって何なのか，自分たちが本当に求めている豊かさを考え，共有していけると良い。
- ・みんな，幸せになる・豊かになるために，取捨選択してきた。いろんな幸せや豊かさを提案していただろうし，幸せで豊かということ人それぞれ違う。30年後の目標を語っても，実際にそうなるかどうかはわからないが。自分の信じる道を提案するしかないと思っている，私の使命として，人間は食べるのが基本であるので，食べる技術・人を維持していく・次の世代につなげる，ことだと思っている。
- ・CO2ゼロに向かうということや，必ずしもゼロかということを考え直すことが大事。これはできるがここまではできないという状況を踏まえて，考えていくことが必要。
- ・コロナ禍で，介護施設にいる人は家族との面会もできず，QOLが非常に下がる。社会を見てもスト

レスフルな状況がある。CO2 の正味ゼロと同時に豊かさを考えると、精神的な充足も重要。自然や四季が感じられるか、文化を通して自然を見直す、などがキーワードとして重要になってくる。環境問題を解決する上で、精神的なところを踏まえ、文化軸からのアプローチも長期的には大事。

- ・古着の持つ、古美術としての価値、美意識にわびさびがある。現代版のしまつを考えたい。

○消費行動

- ・人は足りているものではなく、ないものを求め、足りないものをモノで補っている。足るを知り心が豊かになることが地球の調和につながる。
- ・ごみになるものは売らない、ごみは買わないが当たり前になることが豊かさかもしれない。
- ・生活技術はある時から生活している人が消費者になり、生産と消費、技術を開発する人と使う人が分かれてしまった。もう一度「生活者」として統合する必要がある。企業も生活者も一緒になって、ライフスタイルを作っていないといけない。
- ・もっと食べ物が選べる、米粉パンや代替肉が気軽に買えるようになると良い。
- ・幸せな食卓が地域に広がると、CO2 が出ない地域になるのではないか。
- ・必要なものをすべて知り合いから買えるようになれば、行動が変わるのではないか。買い物で良いことに貢献していると感じることができることが大事。
- ・環境にいいことをしていたら、いいことがあるという、手ごたえ、手触りが欲しい。長く使うことによる経済的メリットの仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ライフスタイルを地域循環型にして、地産地消の方が実現可能だと思う。

○住まい

- ・夏は涼しく冬や温かい住まいだと、豊かに生活できる。
- ・収益が生まれれば、原動力になる。ソーラーパネルをつけて余剰を売電するなど、何かできることがあるのではないか。
- ・テクノロジーを楽しく上手に取り入れながら、持続的な暮らし方や時代背景を考えてはどうか。
- ・そもそも、今の生活でどれだけ CO2 を出しているのか可視化する必要があると思う。

○つながり

- ・2050 年も人のつながりが大事だと思う。地藏盆などの行事でいろんなものをシェアしてつながりが育ってきた。課題も含めシェアして解決していくことが大事だと思う。
- ・地域の中でお金やモノが循環し、皆が持続していくレベルの経済成長にとどめる地域経済モデルが必要。
- ・自然に対する感謝の心が日本文化の肝である。人間も自然の一部であるということ、身近な自然を感じるものがライフスタイルのビジョンの一つの姿で、日本文化の精神を世界に発信することが今、求められている。
- ・人も自然の一部という考えを持っていけば、自然との対峙の仕方が変わってくる。人と自然との関係を見つめ直すことが重要である。
- ・環境問題を解決する上で、精神的なところを踏まえ、文化軸からのアプローチも長期的には大事。

○目標, その他

- ・ 定量的な数値目標である CO2 と, 定性的な目標・選択肢, 両方が必要。CO2 ゼロは, その先に達成するものへのマイルストーンで, CO2 ゼロで何を達成するのが重要である。
- ・ CO2 正味ゼロを, 技術を駆使して達成するか, 地産地消のライフスタイルで実現するか, 決めておく必要がある。
- ・ 炭素回収技術等, まだ実用化されていない技術を過信するのは危険。ライフスタイルを地域循環型にして, 地産地消の方が実現可能だと思う。2050 年に目標を置きながら, バックキャストで考えるが, 技術を過信するのではなく, 実行可能なライフスタイルを考えていけると良い。
- ・ 2050 年はどのような技術になっているか, 前提をそろえつつ, どんな技術であつてもどんな時代でもぶれないことを描いていってはどうか。例えば, 誰も孤独ではない, 人だけでなく動物も自然も取り残されてないなど。

2 ボトルネック解決・行動起爆剤の視点に関するもの

○頑張らなくても行動できる仕組みづくり

- ・ 頑張らない仕組みや, 楽しく生きていたら勝手にそうなる仕組みづくりが必要。

○環境配慮・社会貢献の行動の主流化

- ・ 例えばビーガンの人の活動のように, 一部の方々が率先して動いても, マイノリティのままだと社会は変わっていかない。様々な工夫や様式の変化などを生み出すため, マイノリティをマジョリティに変える, 色んな実証実験が必要。特定の人・エリア, 環境等, マジョリティの場づくりが必要。

○多様な価値観を反映した選択肢があること

- ・ 我慢だけでなく, 便利で, かつ環境にやさしい暮らしの選択肢をできるだけ示すことが大切。
- ・ 様々な選択肢があつて, 考えずとも環境配慮している状況をつくることが重要である。
- ・ いろんなストーリーがあつて良いが何でもありではなく, こういうものかとイメージできるいろんな選択肢を例として示し, いろんな将来が開けているようにつくっていけると良い。

○わかりやすくポジティブな伝え方

- ・ 例えば, FEAST (Fun, Easy, Attractive, Social, Timely) のような 5 つのキーワード (軸) を, キャッチコピーとしてわかりやすく提示していけることが大切かと思う。
- ・ 「こんなことできるよ」という前向きなメッセージが大事。

○人材育成

- ・ 石炭火力発電など, 気候変動を促進している事業活動に従事している人の新しい就職先を探すということは, 優先的に考える必要がある。
- ・ CO2 正味ゼロを達成したとしても, 温暖化ではない問題がでてくるかもしれない。そうなった時に解決していける人材の育成が必要である。

○他の社会問題と気候変動問題の同時解決

- ・ 2050 年 CO2 ゼロは大事だが, 今ある社会問題は, 気候変動だけでなく, ジェンダー, 社会福祉, 経

済、社会、健康、労働問題などが複雑に絡み合っている。気候変動がいろんな社会問題と絡み合っているという視点を持ち、CO2 ゼロだけが先行するのではなく、他の社会問題の解決につながっていくアクションが掲げられると良いと思う。

○ビジネスで回る仕組みづくり

- ・2050年は、ビジネス自体が持続可能性に繋がっていることのイメージは大切。
- ・テクノロジーを楽しく上手に取り入れながら、持続的な暮らし方や時代背景を考えてはどうか。地域の中でお金やモノが循環し、皆が持続していくレベルの経済成長にとどめる地域経済モデルが必要。

○環境へのインパクトのメリットの見える化

- ・そもそも、今の生活でどれだけCO2を出しているのか可視化する必要があると思う。
- ・生活で出ているCO2の可視化は、生活においても仕事においても必要。

○当事者意識・目標と道筋の共有

- ・皆が当事者意識を持ち、ゴールとその道筋を見据えていく必要がある。
- ・自分が社会を支えていること、社会の一部であることを認識できる仕掛けづくりが重要。
- ・「衣食住」や「衣食足りて礼節を知る」というとおり、生活に必要でこれまで続けてきたことが、動かなく回らなくなりつつある、そこを埋めるのは、先人の知恵であり、昔から培われてきた、私たちが切り捨ててきたものである。再度、それらを取り込み、必要な物を見直し、断捨離することが、2050年に思い描く良い世の中・社会を実現することになるのではないか。

○京都の自然の恵みへの感謝

- ・人も自然の一部という考えを持っていれば、自然との対峙の仕方が変わってくる。人は昔から、花を生けるなど、自然を感じる仕組みを作っていた。自然は厳しいものであるが、一部切り取って日常に取り入れ、思いを馳せたり、自然と調和するような街づくりをしてきた。その考えの根幹にある、人と自然との関係を見つめ直すことが重要である。
- ・気候変動をはじめ社会問題の大きな原因として、人が自然への畏怖の念を無くしていることがある。
- ・人間が一番だという認識を変えていかないといけない。自分たちの足下を見ることが大事。
- ・自然に対する感謝の心が日本文化の肝である。人間も自然の一部であるということ、身近な自然を感じるものがライフスタイルのビジョンの一つの姿で、日本文化の精神を世界に発信することが今、求められている。